

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年8月25日
タイトル	学校に「くわい」を植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年7月14日（金）福山市立川口小学校5年生97名が、学校にあるミニ田んぼへ「くわい」を植える農業体験をしたので取材しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

1、2時間目に1組から順番に植付けを始めました。今日植える「くわい」は、芽が伸びて矢じりの形の葉が出ています。先生から「芽が伸びているので、折れてしまわないように気をつけて。根っこも土の中に入れるようにしっかり土を被せ、しっかり押さえましょう。これから植える苗は命です。みんなが命を扱っているという責任をもって植えましょう。」と話されました。



楽しみにしていた植付け。がんばるぞ！

くわいの根や石を手探りでとります！

まず、みんなでミニ田んぼの中の石やゴミを取り、いよいよ植付け開始です。恐る恐るミニ田んぼに入り、土の感触に思わず「うわあ」と声があがります。他の学年は授業中なので「静かにしよう。」と言うのですが、ついつい声が出てしまいました。

石やゴミを取ったら、一人一つ苗を持ち一歩ずつ進んで植えます。片手で苗を持ち、片方の手で土を掘って、その穴に苗を入れ、すばやく周りの土を被せます。水が濁って手元が見えないのですが、上手な子はあっという間に植えて苗がピンと立っています。



うまく植えられない子は一生懸命に土を掻き分けているのですが、なかなか苗が安定しません。やっと植えたと思ったら、少しすると苗がプカプカ浮いてしまい、見つけた子が植え直していました。

最初、水が多く長靴が水没してしまう子もいて植えるのが難しそうだったので、2組からは植えやすいように少し水位をさげましたが、やっぱり難しいようでした。



気持ちよさそう。
早く植えたいな。

一つの苗から何個
のくわいができる
かな。

「上手に育てたら1つの苗から50個のくわいができるよ。」と教えると「すごい！100人で植えるから、5千個できて・・・、全校生徒が600人だから・・・。」と早くも収穫してからのことを考えていました。

みんながくわいの農業体験を楽しみにしていることが窺え、この農業体験が川口小学校に根付いていることを実感しました。

また、子ども達に水土里ネット福山から農業用水路への転落防止のチラシと福山市の備蓄用飲料水を配布し、防災を呼掛けました。

川口小学校では、これから校庭でくわいの成長を観察します。秋には出前授業を開催し、くわいについて各方面から学び、冬には収穫して自分達で栽培した「くわい」を使って調理をするなど様々な取組みをされます。くわいの成長とあわせて子ども達の成長が楽しみです。

水土里ネット福山は、こうした取組みに協力し子ども達に農業を通じて「ふるさと」の素晴らしさを伝えられるよう21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。